

廃校活用推進イベント 事例発表

徳島県三好市 & ハレとケ デザイン舎



1. 三好市の概要



四国のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝として栄えてきた。

平成18年に6つの町と村が合併し、珍しい飛び地を有する四国最大面積の「三好市」が誕生した。

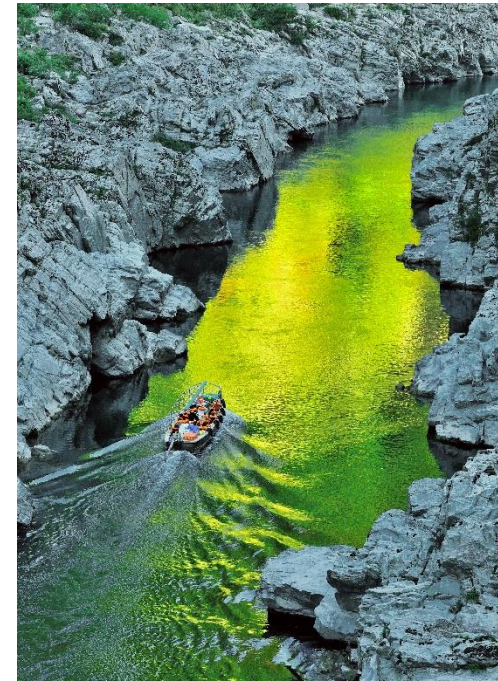
面積のほとんどが山林で地上デジタル波を受信しづらい環境のため、市内全域にケーブルテレビ網（光ケーブル）が整備されており、快適なインターネット環境を活用したサテライトオフィスやワーケーションなど、場所にこだわらない働き方ができる。

著しい人口減少により、多様な暮らしの基盤となるコミュニティの維持が困難になっている。



面 積	721.42km ²
林野面積	87.1%
総 人 口	21,791人（2025年8月末）
高齢化率	52.98%（2025年3月末）

1. 三好市の概要



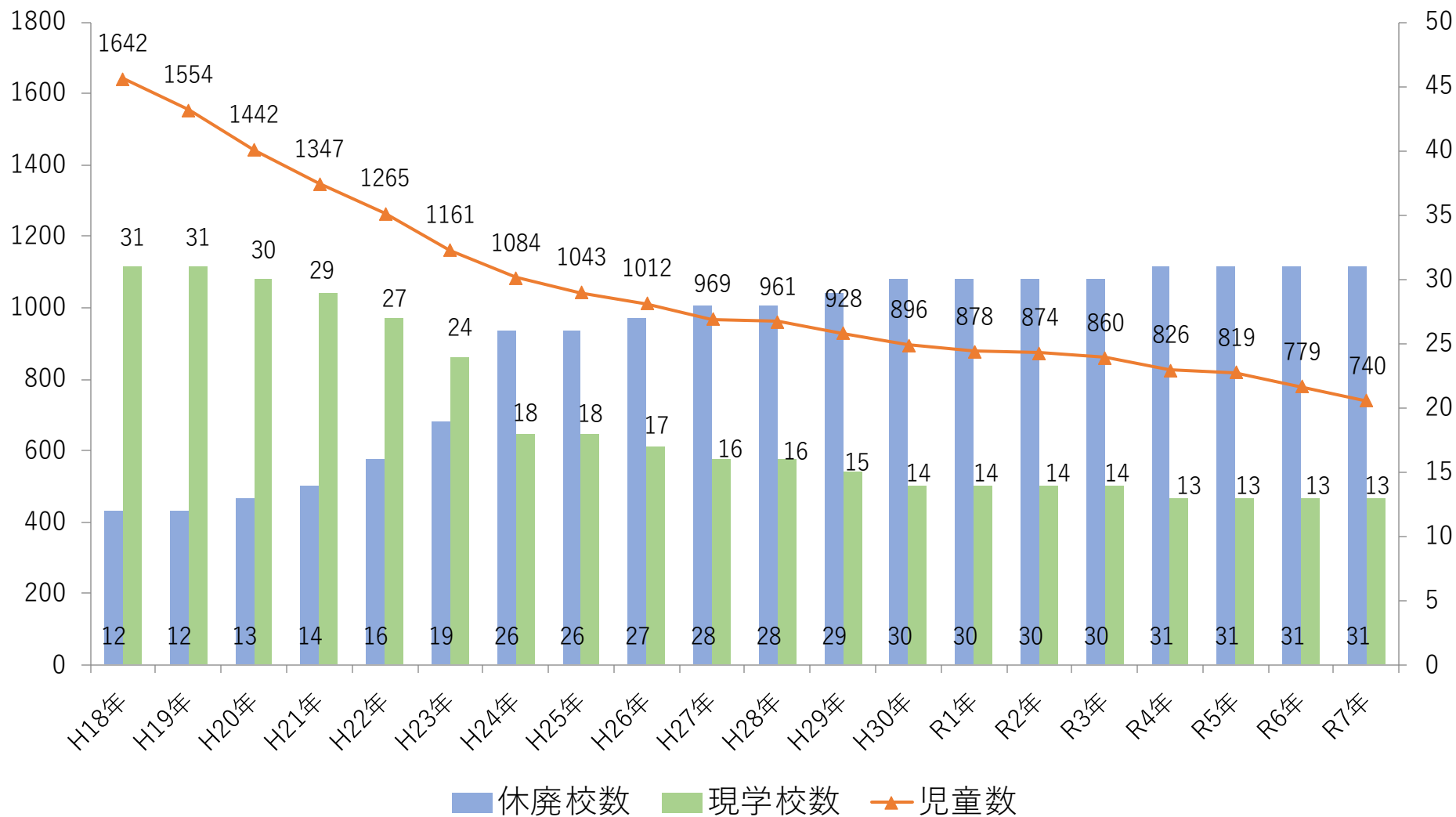
2. 三好市における休廃校の状況

ほとんどが急峻な山地で占められ、数多くの集落が点在している。
距離は近くても高低差により通学が困難なため、多くの学校が配置されている。
現在は中学校も含めて34校が休廃校となっており、うち3校は解体済み。

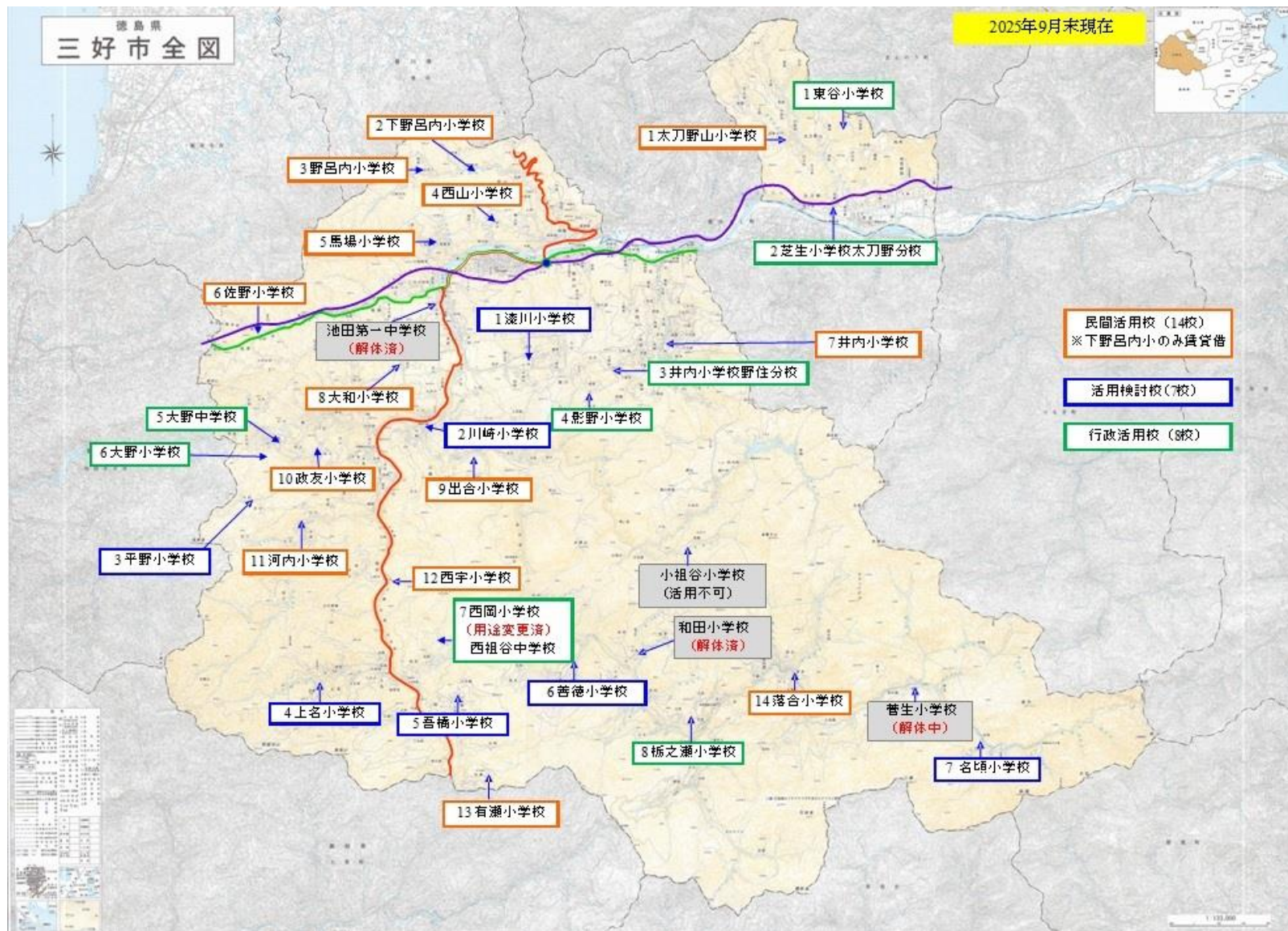


2. 三好市における休廃校の状況

小学校の児童数と休廃校数の推移



2. 三好市における休廃校の状況



3. 廃校活用に向けた取り組み

活用基本方針、募集要項の策定

- ・ 活用に関する基本方針及び募集要項（選定基準）等の仕組みづくり



休廃校等活用推進委員会（組織）の設置

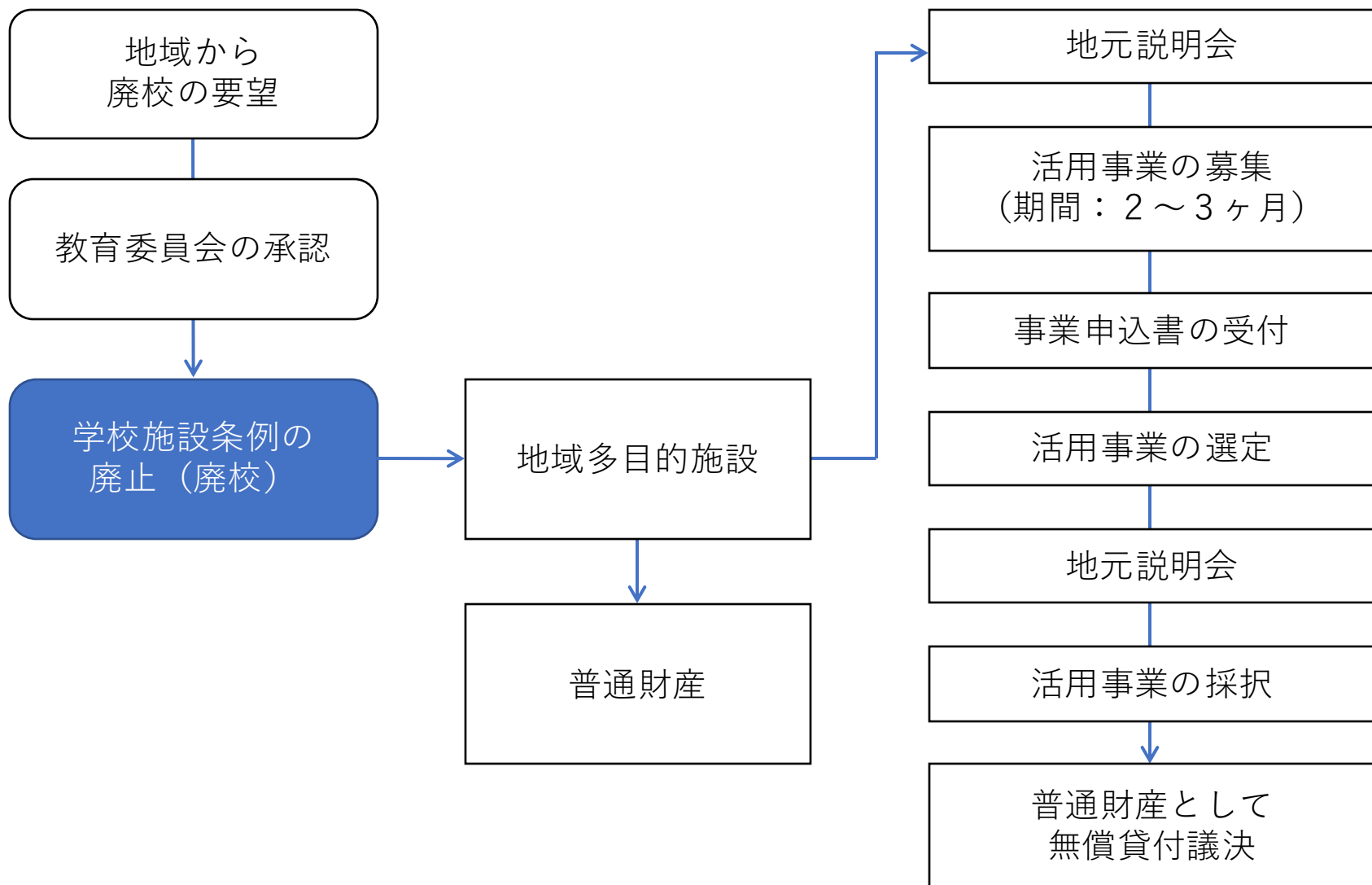
- ・ 応募事業者の選定、採択
- ・ 基本方針の見直し、事業の進捗状況調査等



地域意見交換会及び説明会

- ・ 各小学校区で意見交換会や活用事業の公募前後の説明会の実施（地元意見を重視）

3. 廃校活用に向けた取り組み



3. 廃校活用に向けた取り組み

費用負担に関する基準

- ・施設の改修については市の承諾を得て事業者負担で行う。
- ・撤退の際は原状復旧が基本だが、改修によって発生した有益権を市が必要とする場合はその限りでない。

事業者の負担

- ・活用主体にかかる光熱水費
- ・活用のための施設改修費
- ・有償貸付時の賃借料
- ・活用上、支障をきたす施設の軽微な維持修繕等にかかる費用
- ・その他活用にかかる費用

市の負担

- ・施設の主要な部分の維持修繕にかかる費用
- ・市が設置した消防用設備等の保守点検に必要な費用
- ・浄化槽の法定検査に必要な費用

3. 廃校活用に向けた取り組み

視察ツアー受入

→サテライトオフィス誘致事業として、商工政策課と連携して取り組んでいる。

市内の空き旅館、休廃校などを案内



観光、文化、自然など三好市を体感



3. 廃校活用に向けた取り組み

アイデア募集（平成24年8月～） 59件

- ・市ホームページ等による活用事業者の公募

募集実績 平成25年3月（第1次募集 22校）～ 令和6年12月（第19次募集 1校）

- ・応募総数 26件
- ・採択件数 15件
- ・撤退件数 3件

成果（令和5年4月）

- ・雇用者 約92名（事業者が市内の団体の会員数54名を含む）

現在、募集可能な活用検討校は7校。

老朽化により修繕をしないと貸し出せないものや、地域コミュニティ活動が活発なエリアにあるため地元利用が優先されるもの、僻地にあるため事業者が活用しづらい等の理由により、実質頭打ちの状態。

今後は中心市街地にある小学校の改築が予定されているため、近隣校との統廃合による廃校増加が見込まれる。

4. 廃校活用のメリット

事業者

経常経費の節約（無償貸付）
企業の好感度向上（地域貢献）
自然、田舎の生活
地域に関心が集まる（マスコミ、卒業生）

三好市

雇用創出
人口・関係人口増（移住や二拠点生活）
維持管理費用の負担減（光熱水費等）
施設の長寿命化
地域コミュニティの維持や活性化



5. 活用事例

(2025年8月1日現在)

	施設名	事業者	主な事業内容	事業開始日
1	旧有瀬小学校	市内の団体	特産品加工、宿泊、体験型観光	平成25年7月21日
2	旧河内小学校	県外の株式会社	農産物の原材料・加工製品の卸売業	平成25年10月1日
3	旧太刀野山小学校	県内の株式会社	高齢者福祉サービス	平成26年4月1日
4	旧西山小学校	県外の特定非営利活動法人	高齢者福祉サービス	平成26年4月1日
5	旧出合小学校	県外の株式会社	デザイン、カフェ、宿泊	平成26年9月14日
6	旧西宇小学校	市内の社会福祉法人	高齢者福祉サービス	平成26年9月16日
7	旧野呂内小学校	市内の団体	地場産農産物の乾燥加工、販売、特産品開発	平成31年4月1日
8	旧馬場小学校	市内の社団法人	スクールコテージ及びラボの運営	令和2年4月1日
9	旧落合小学校	市内の団体	世界農業遺産認定雑穀を使用した商品開発と販売	令和2年4月1日
10	旧大和小学校	県外の有限会社	オリジナルTシャツ、タオル等製造（印刷）	令和2年7月1日
11	旧井内小学校	市内の学校法人	広域通信制高校	令和5年4月1日
12	旧政友小学校	市内の合同会社	地場産自然素材を活用したインテリア等の加工と販売	令和6年11月1日
13	旧佐野小学校	県外の株式会社	余剰建材・家具などのアウトレット販売	令和7年8月1日

5. 活用事例

旧 馬場小学校（社団法人 四国まんなか創造推進協議会） 企業研修・ワーケーション・大学等の合宿施設



5. 活用事例

旧 佐野小学校 (TSUDA CONSTRUCTION CANPANY)

余剰建材・家具などのアウトレット販売



＼ ハンガクヤって？ /
建材・家具・端材などの
新品/中古のアウトレット販売



余ったモノも、まだ使えるモノも、
もう一度流通させる。

＼ 大歓迎 /
専門業者、DIY、一般のお客様

リフォームやDIYをお考えの方
お店作りをしている方におすすめ！



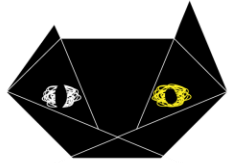
5. 活用事例

旧 出合小学校（ハレとケ デザイン舎）

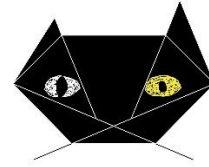
カフェ、ホテル、サウナ、保護猫ルーム、デザイン事務所



6. 長期継続事業



**HARETOKE
DESIGN.INC**

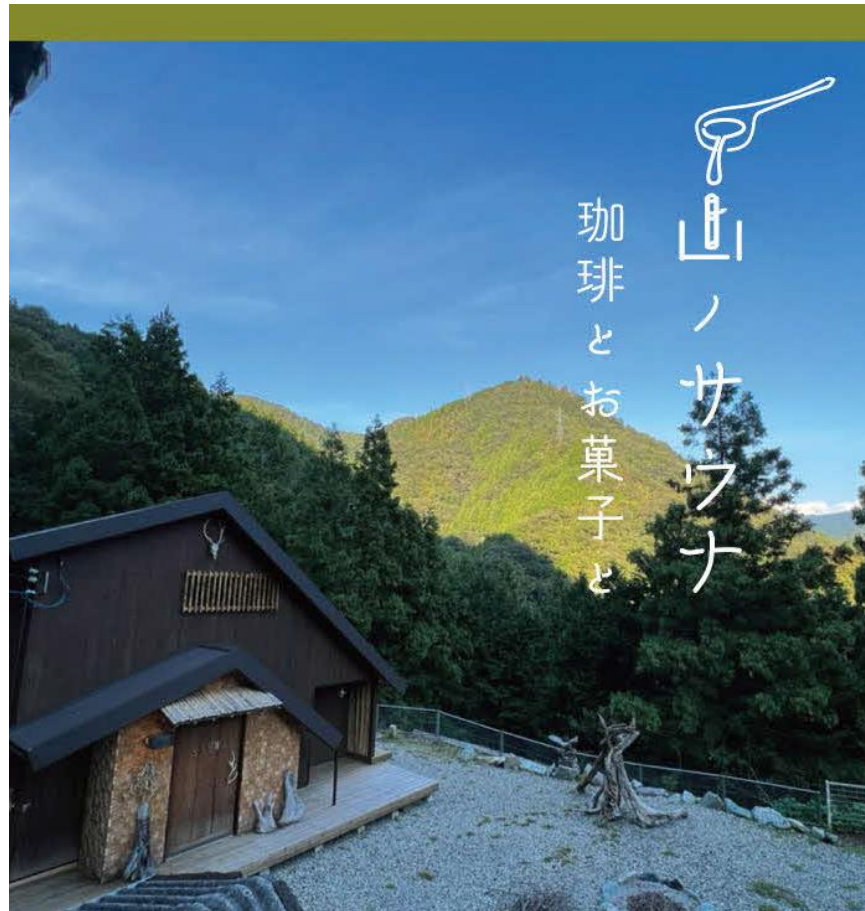


ハレとケ珈琲



6. 長期継続事業

令和5年4月 サウナ運用開始



6. 長期継続事業

令和6年7月 まち猫フルネス（保護猫ルーム）運用開始

TNR活動に参加しつつ、保護した猫の里親探しを行う。
 野良猫を減らす取り組みで
 地域課題に貢献している。



6. 長期継続事業

- ・保護猫ルームを開設するにあたり、ガバメントクラウドファンディングに参加し、返礼品として徳島の伝統工芸を取り入れた商品を開発した。集まった寄付金は教室の改修や、猫の医療費・餌代などに活用。
- ・カフェのメニューに猫の要素を取り入れて施設全体のイメージ統一を図った。



徳島の伝統工芸を取り入れた商品



まち猫パルフェ

6. 長期継続事業

? 事業拡大に伴う資金調達はどうしているか

- ・地域課題と向き合った事業を積極的に行い、補助金なども活用。
- ・まずは小さく、腰を据えて取り組むことが事業継続に繋がる。

? 施設維持管理費はどうしているか

- ・施設維持＝事業の維持と考える。
- ・人口減少から休校・廃校となった場所であることから、集客の必要な事業の場合はリスクになるため、地域の特徴を逆手に取ったアイデアが必要。

事業者コメント

廃校を活用することは、シード権となることもリスクとなることも。コロナのようなストップを余儀なくされる事態に陥ることもありますが、円安が功を奏したことと、元々インバウンドの盛んな観光地域であったため、それらを活かした事業の可能性も感じています。

その地域の特徴を引き出し、外国人観光客の興味喚起につながるサービスは、これからまだまだ盛り上がりと言われている昨今、全国的に魅力のある廃校はたくさんあるのではないのでしょうか。

ハレとケ デザイン舎 代表 植本修子